

# BASS

## MAGAZINE

FOR PROFESSIONAL & AMATEUR BASSISTS

2

ベース・マガジン  
2001  
FEBRUARY

# Tokie

R I Z E ,  
A J I C O

特集

タタタタッタタ～タ

～意外と弾けない3連リズム～

THE BASS INSTRUMENTS

究極のトーン

～名人のデータから学ぶサウンドメイク～

特別企画

初めての.....

～プロの初体験アンケート～

also featuring

リトル・フィート

ジャミロクワイ

レイジ・アゲインスト・ザ・マシーン

スクリプト

チャーネット・モフェット

水野正敏

トニー・レヴィン

wilberry

ニッキー・シックス

グレン・マトロック

ザ・コレクターズ

人間椅子

クリスチャン・マクブライド

BM SELECTED SCORES

「Why I'm Me?」RIZE

「ウェア・ドゥ・ウィ・ゴー・フロム・ヒア?」

ジャミロクワイ



## TOPICS



スタクラも顔負け!?

### ●ヤン・オロフ・ストランドバリ

世界には、名前こそ知られていないが、素晴らしいテクニックや感性を持つベーシストがまだまだ多数存在する。今回紹介するフィンランドはヘルシンキ生まれのベーシスト、ヤン・オロフ・ストランドバリもそんな中のひとりで、アコースティック、エレキ、ウッドを巧みに操る才能の持ち主だが、日本ではほぼ無名に等しい。そんな彼がライブのために初来日、編集部にもあいさつに来てくれた。スタンリー・クラークやアーマンド・サバルレッコラ、著名ベーシスト達とも多数共演を重ねているヤン・オロフ・ストランドバリとは一体いかなる人物なのか、早速プロフィール的な話を聞いてみたぞ！

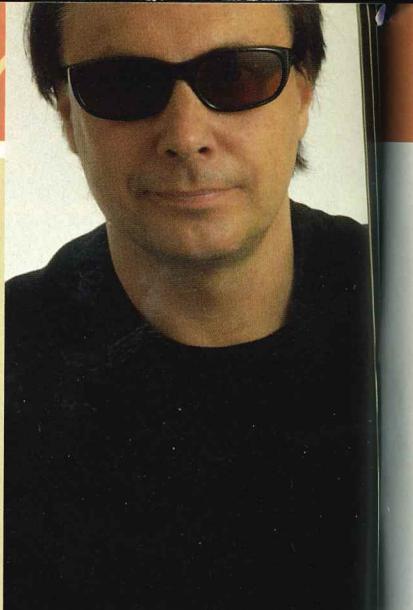
楽器を始めたのは14歳くらい。トランペットとドラムとベースが好きで、ベースに関しては、特にその低く太い音が好きだったんだ。その頃、マイレス・ディビスの『イン・ア・サイレント・ウェイ』と『ビッグチーズ・ブリュー』を聴いて、どんどん音楽にのめり込んでいったよ。ベースはエレキから始めたんだけど、その後ヘルシンキのコンサーバトリ（音楽専門学校）へ行ってクラシックを勉強したから、ウッド・ベースを中心に弾くようになったんだ。でもウッドだけを弾いていると

なかなか仕事に恵まれない。それにウッドの良い音をクラブで出すのが難しいという理由で、またエレキ・ベースに戻ったのさ。ちょうどその頃ジャコが出てきて、エレキでもエッジのあるウッド的な音を出していたしね。その頃はディヴ・ホラントにも影響を受けたし、スラップが流行った時はルイス・ジョンソンからもかなり影響を受けたよ。

スタジオの仕事を中心に活動を開始したけど、その後は自分のバンドも作ったから、ベースで自分を表現したいと考え始めたんだ。自分のアイディアを全部ベースで出したいとずっと思っていたしね。最初のソロ・アルバムを作るのに2~3年かかってしまったけど、ベースの録音には技術的にも相当こだわったんだ。そのCDを聴いてくれたスタンリー・クラークから、“どうやってこの音を録音したんだ”と聞かれるくらいね。それにフィンランドの奨学金をもらって、各地で演奏できるようにもなったし、EBSのクリニックはもう10年間もやっているんだよ。

メインのエレキ・ベースはアレンピック（シリーズII）の6弦。もともと、アレンピックにはギターのような細いネックの6弦はあったけど、ワイド・ネックでの6弦というのは本当にこれが初めての作品なんだ。最高級の材を使つて、ボディのセンター部分は11枚のラミネート、ウイング部分は7枚のラミネート（表面はパール・ウォルナット）が施されている。メインのアコースティック・ベースは、フィンランドのRauno Nieminenというメーカーで作ってもらったシグネイチャ

を使って、ボディのセンター部分は11枚のラミネート、ウイング部分は7枚のラミネート（表面はパール・ウォルナット）が施されている。メインのアコースティック・ベースは、フィンランドのRauno Nieminenというメーカーで作ってもらったシグネイチャ



下記のホームページ・アドレスで、ヤンに関する情報および音源を入手することができる。  
www.dlc.fi/~jans www.ebs.bass.se

●モデルだよ。僕のアイディアを反映させたもので、fホールがないんだ。だからハム・ノイズを防げるのさ。ピックアップはアクティブで、フィンランドのAMFというメーカーのもの。ほかにはアレンピックの5弦やケン・スミスの6弦、もちろんウッド・ベースも何本か持っているよ。

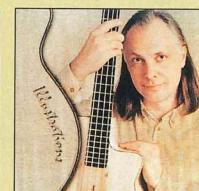
クリニックやコンサートで、世界各国に行ってるけど、日本は今回が初めてなんだ。ふだんのライブでは、アコースティック・ベースとエレキを両方使って、シーケンサーと合わせてソロを弾いたりしているよ。僕はアコースティック・ベースでもスラップをガンガンやるんだ。フラメンコ・ギタリストのようにボディをカツカツと叩きながらね。ソロ・アルバムは3枚出していて、アーマンド・サバルレッコやスタンリー・クラークともツイン・ベースで共演しているんだよ。

まずは日本のみんなにぜひ僕の音を知ってほしいね。それから、音楽でも何でも、これだと思ったことはゴールに向かって諦めずに続けてほしい。10年20年かかるとも、人生に何が起きても、とにかく最初の目標に向かって諦めずに続けてくことが大切だよ。

Interview:Keita Ioka



「GREAT MOMENTS」  
輸入盤



「Illustration」  
輸入盤



左から、寺沢功一(b)、宮脇知史(d)、野村義男(g)、ゲスト：野村義男(g)、寺沢功一(b)、宮脇知史(d)の橋本仁、ゲスト：野村義男(g)、寺沢功一(b)、宮脇知史(d)



「レッツゴー!!ライダーキック/Power Child」  
コロムビア COCO-15371



### イカデビルの独り言

#### ●寺沢功一 (RIDER CHIPS)

いつもいつも我々のジャマをする憎きライダーどもめ。12月16日にも、

我々が練りに練り上げた“東京厚生年金会館制圧計画”，別名“MASKED RIDER LIVE 2000”に乗り込んできたうえ、歌にアクションにと会場を盛り上げおった！ くう～、余計なことを。まあ今回は、RIDER CHIPSなどと名乗る強力な助っ

人がいたのだから、我々が不利だったのも仕方のことではある。それにしても、野村義男(g)、寺沢功一(b)、宮脇“JOE”知史(d)の強力な演奏に加え、ROLLY(vo&g)はまだしも本郷猛(演・藤岡弘)までが熱唱するのだから、いまいましいことこのうえない！ 会場全体までもが一緒に“ライダーキック!!”などと叫びおる。く、口惜しや～。早速我々もヤツらのCDを入れ、弱点を研究だ！ さらなる悪のために！ (戦闘員一同) イー！